

東大和市 変電所今夏全面公開

戦争の爪痕 後世に



米軍による銃撃跡が残る旧日立航空機立川工場
変電所一東大和市中で2019年8月、丸山博撮影

東大和市は、壁面に第二次世界大戦中の無数の銃撃跡が残っている戦災建造物「旧日立航空機立川工場変電所」（同市桜が丘2）の保存・改修をして、8月に公開を再開する予定だ。これまで見学できなかった2階も含めて変電所を初めて全面公開する。【青島頭】

市によると、1938年の施設が壊滅し、111人
に建設された工場は軍用機 が死亡したとされる。
のエンジンを生産した。戦 工場敷地北西にあった鉄
争末期の45年2〜4月に3 筋コンクリート造り2階建
回の米軍機の爆撃で約8割 ての変電所は、高圧電線で

軍用機エンジン生産 爆撃被害



改修後に初めて公開される変電所2階の機械類―東大和市提供

送られてきた電気を減圧
し、工場内に送っていた。
空襲により、無数の銃弾や
爆弾を撃ち込まれて窓枠や
扉が吹き飛び、外壁に多数
のクレタター状の穴が開い
た。
設備は生き残り、戦後は
スレートや編み物機などの
製造工場に電気を送る施設
として、平成初期の93年ま
で稼働した。95年に市の指
定文化財となり、都立東大
和南公園の一角で月1回公
開されてきた。
しかし、耐震補強の必要
性や老朽化による雨漏りの

ため、市はいったん公開を
停止。2年前から約1億3
000万円をかけ、弾痕を
残しながら外壁を補修する
とともに、危険な状態だっ
たコンクリート製階段の上
にガラス製階段を設置する
工事をしている。
完了後、8月に予定され
る「平和市民のつどい」で
披露される予定だ。今後は
週2回公開する意向で、変
電設備の操作盤などがある
2階に上がることができる
ようになる。1階にも当時
の計器類を置くなど展示を
充実させるとしている。
尾崎保夫市長は「変電所
は恒久平和の願いの象徴で
あり、残すのは私たち東大
和市の使命だ」と話してい
る。